

令和3年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立加賀聖城高等学校

| 重点目標 | 具体的取組 | 実施状況の達成度判断基準 | 集計結果 () は昨年度 | 分析（成果と課題）及び改善等 |
|--|---|--|-----------------------------|---|
| 1 生徒の1人1台端末の効果的な利活用に向けた校内研修会の実施、定通連携の公開授業への積極的参加等を通して、授業や学校環境のユニバーサルデザイン化を推進することで、生徒の授業満足度を高め、安全・安心な学校づくりを目指す。 | ① 授業や学校環境のユニバーサルデザイン化という観点を踏まえ、生徒の基礎学力の定着のために授業の進め方や授業内容の工夫改善を図る。 | 授業がわかりやすいと答えた 生徒の割合が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 | B 96.6% (100%) | ほとんどの生徒が「授業が分かりやすい」と答えており、授業内容や教員の指導に対して肯定的である。今後もさらに生徒の興味関心を高める工夫を行うとともに、生徒の基礎学力の定着に地道に取り組んでいく。 |
| | | 授業のユニバーサルデザイン化により、生徒の学習環境が改善したと答えた教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 | D 66.7% (88.9%) | 昨年度より生徒が見通しを持って学びやすい授業展開とするため、授業のユニバーサルデザイン化を行っている。しかし、ICTの効果的利活用に重点をおいて取り組んだために、教員の優先度が低下した。今後、ユニバーサルデザイン化を念頭におき、ICTの利活用を通して、多様な生徒への効果的な授業実践に取り組んで行く。 |
| | | 定通連携の公開授業も含め、他の授業を見学した回数の平均が A 5回以上 B 4回以上 C 3回以上 D 3回未満 | A 6.0回 (3.8回) | Chrome bookを有効に活用した授業方法を学校全体で進めていくために、多くの先生方が校内だけでなく、県内定時制高校の授業を見学した。今後、互見授業を行うだけでなく、授業後の協議会も行い、生徒の主体的な学習活動を推進していく。 |
| | ② 1人1台端末の効果的な利活用に向けて、ICT機器を活用した工夫された授業を展開し、生徒の学習効果の向上を目指す。 | タブレット端末等のICT機器を効果的に活用した授業を行なった教員の割合 A 80%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満 | C 66.7% (今年度より実施) | 大部分の教職員が、毎週1回以上、「生徒が主体的にChrome book等のタブレットを活用する授業」を実践している。しかし、「ICTを活用した授業」に消極的な教職員もいるので、今後、全教職員が「ICTを活用した授業」を実践できるようにする取り組みを行うとともに、学習効果の向上を目指して、ICTを活用した効果的な授業実践に意欲的に取り組んでいく。 |

| 重点目標 | 具体的取組 | 実施状況の達成度判断基準 | 集計結果 () は昨年度 | 分析（成果と課題）及び改善等 |
|---|--|--|---|--|
| 2 総合的な探究の時間を中心とし、生徒の興味・関心に応じた分野で地域学習を実践することにより、生徒の自尊感情を高め、充実した学校生活を送れるよう支援し、社会人として必要な人間力の育成を図る。 | ① 日々の声掛け等の、粘り強く地道な指導を続け、生徒の基本的な生活習慣を確立する。 | 欠席・遅刻をしないように努めている生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 | A 76.5% (66.7%) | 日々の授業での生徒への声掛けと1ヶ月ごとの皆勤者表彰を行うなど、欠席・遅刻をせず、時間を守ることの大切さを全教職員で指導している。そのため、76.5%の生徒が欠席・遅刻をしないように努めている。今後も日々の声掛けを積極的に行い、生徒が基本的な生活習慣を確立するための指導を行う。 |
| | | 3度の食事をとっていると回答した生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 | D 23.5% (64.3%) | 3度の食事を摂っていると回答した生徒は、23.5%であり、摂らせていると答えた保護者も41.2%である。「ほっかほかタイム」等の食育を通して、身体的な健康維持だけでなく、基本的な生活習慣確立のために、食事の大切さを日々伝えていく。 |
| | ② いじめを含め問題を抱える生徒の早期発見と支援を行い、問題行動の未然防止を図る。 | 支援連絡会やいじめ対策委員会を通して、生徒の現状を理解し、支援ができていると評価する教員が A 100% B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満 | C 90.0% (100.0%) | 先生が親切に相談に応じてくれると答える生徒は100.0%、保護者は94.1%と非常に高い結果となった。今後も、教職員が常に個々の生徒の現状理解に努め、アンテナを学校生活全体に張り巡らせる。その上で、毎月1回の支援連絡会において、生徒の現状理解で終わらせず、支援の方向性についても協議していく。 |
| | ③ 総合的な探究の時間等で生徒の興味・関心に応じた分野で地域学習を実践する。 | 充実した取組ができたと回答した生徒の割合 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | A 83.3% (73.3%) | 生徒が希望した3グループに分かれて、生徒自身が発想したテーマを踏まえた活動を行った。そのため、生徒は試行錯誤を繰り返しながら、主体的に取り組むことができ、充実した実践となった。来年度以降は、地域との関わり合いをさらに大切にしたい取り組みを実践していく。 |
| ④ 地域の各種行事やボランティア及び、地域貢献に関わる活動を実践する。 | 地域の各種行事やボランティア 及び、地域貢献に関わる活動に参加した生徒の割合 A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満 | D 17.7% (40.0%) | 今年度もコロナ禍のために、「大聖寺寺町中クリーン作戦」などの学校行事が実施できなかった。また、聖城祭に近隣住民の方に参加していただくこともできなかった。次年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら、学校行事や総合的な探究の時間などを通して、高校生の視点から地域貢献の重要性を伝えていく。 | |

| 重点目標 | 具体的取組 | 実施状況の達成度判断基準 | 集計結果 () は昨年度 | 分析（成果と課題）及び改善等 | |
|------|---|--|---|---------------------------|--|
| 3 | 生徒の能力や特性に応じた個別の支援計画を早期に作成し、共有し、活用することで、生徒の進路実現の充実を図る。 | ① 生徒が、自己の能力・適性を理解し、学習意欲の向上を図れるように、資格取得に向けた指導を行う。 | 検定・資格取得・コンクール出展に取り組んだ生徒の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満 | A 83.3% (50.0%) | 漢字検定に1年生1名、2年生7名、3年生1名、4年生1名の10名が受検して7名が合格した。また、加賀ふるさと検定に1年生5名、2年生6名が受検したが、合格者はいなかった。情報処理技能検定(表計算)に2年生6名が受検して4名が合格した。全商簿記検定に4年生1名が受検して合格した。このように、全生徒の83.3%が検定合格に向けて意欲的に取り組むことができた。次年度も検定合格に向けて、目標をしっかりと持たせ挑戦させていく。 |
| | | ② 卒業までを見通した指導計画に基づき、生徒各人の能力・適性に応じた支援・指導を行う。 | 自己の進路に関する関心が高まったと回答した生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | B 76.5% (68.8%) | 定通企業ガイダンスへの参加や、校内での進路セミナーの開催を通して、生徒の自己の進路に関する関心を高めることができた。今後は、日頃の授業や面談等との連携を図り、生徒が進路意識を高める取り組みをさらに進めていく。 |
| | | ③ ハローワークや地域の企業等と連携して、生徒の就業の支援・指導を行う。 | 就業率が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 | C 52.9% (44.4%) | コロナ禍の影響で就業ができない生徒や、就業を控えている生徒がいると考えられる。今後、ハローワークや地域の企業等との連携をさらに深め、生徒の自己実現や社会貢献の観点から、就業率を上げるよう取り組んでいく。 |
| 4 | 校務分掌の適切な割り振りや業務遂行の協働を進め、教材研究や生徒理解の充実を図る。 | ① 職員間の横の連携を強め、積極的に協働し、生徒理解に取り組む時間を確保する。 | 個々の生徒について、より理解が深まったと感じる教員が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満 | B 90.0% (90.0%) | 本校は小規模校であるため、1人の教員が複数の校務分掌を担当している。そのため、業務遂行に当たり、小規模校ならではの声の掛け合いにより、職員間の横の連携が十分に図られている。これにより、生徒と向き合う時間が確保できたことが生徒理解に繋がっている。 |